21　ポンペが松本良順に贈ったジッヘル著『眼病図譜』について

○山之内外一[1]・千葉　弥幸[2]

ポンペ・ファン・メーデルフォールト（以下ポンペと略）が松本良順に贈ったJ・ジッヘルの眼病図譜（Iconographie Ophthalmologique）について調査したので報告する。

この書は現在千葉大学付属図書館玄鼻分館に保管されているが、これは松本良順と義兄弟の関係にあり、共にポンペの門下生であった佐藤尚中が良順から譲り受け、佐倉に持ち帰り、それを佐藤家の養嗣子である佐藤恒二が千葉大学眼科に寄贈したものとされている。縦横30×22cm、厚さ約3cmの赤表紙、角革、背は革綴じされている。内容は七二枚の版画（Planche）とその説明（仏文）からなり、一枚のPlancheには六～十の色彩図が描かれている。主として眼瞼、結膜、角膜の疾患が大部分を占め、眼球解剖図、手術器械及び白内障弁状摘出術の図解も示され、当時の西欧における眼科学の水準を彷彿とさせる。問題はこの贈呈本の有り様についてであり、以下の点が従来報告されたものと異なる。

一　発行年　本書第一頁に一八五六年、第十五回配本とあるが、この著書はジッヘル自身が述べているように、一八五二年八月一日第一回配本に始まり、一八五九年七月十五日第二十回配本で終わるものであるから、第十五回配本は未完成のものである。この時期は一八五六年四月十六日の発行で、Planche 63までが掲載されている筈であるが、実際にはPlanche 72まで収載されている。これは一八五七年七月十七日発行の第十八回配本までを意味している。

ポンペは一八五七年三月二六日オランダを出帆し長崎に向かっているので、この書を直接持参したとすれば、一八五六年十二月二二日発行の第十七回配本、Planche 68までとなり、従って、来日後第十八回配本の分を追加し製本したことになる。あるいは、第十八回配本を待って、製本したものを取り寄せたことになる。ポンペは一八六二年八月眼科の講義を終了し、十一月一日、長崎を

離れた。

二　この書はテキストと図譜の二部構成からなるが、寄贈書は図譜のみである。ポンペが良順に贈ったのが、テキストと図譜の二部であったのか、図譜のみであったのかは現段階では不明である。寄贈、授受両者のサインは図譜の見返しにオランダ語で記されている。

三　図譜はフランス装丁のものを製本したもので、Planche 72まで揃っている。

ポンペは一八五七年九月、出島オランダ商館医として来日、同年十一月十二日、長崎奉行所西役所で医学生（松本良順ら十四名）を前に教授就任の披露講演を行い、自然科学の性質と状態、その文化に及ぼす影響について概説し、進んでこれを内科学及び外科学に応用すべきことを論じ、翌日から自ら作った講座時間表に従い医学の講義を始めている。これは我が国医学教育史上、特記すべきことであり、松本良順は当時黎明期にあった本邦西洋医学の有り様をかいま見た開拓者と言わねばならない。この両者を結びつけるものとして、この書の存在は大きい。特に眼科学の発展を考えるとき、眼科図譜の有り様は重大で、完成本（一八五九年）に示されている眼底図が、ヘルムホルツの検眼鏡の開発が一八五一年であることを思う時、眼科史的に見ても興味深いものがある。

(1)平松学園大分視能訓練士専門学校）
(2)永吉の眼科）